

特選 「将来の夢」

もうすぐ就活が始まる。そういえば小さいときに抱いていた将来の夢ってなんだったっけ？自己分析についての講演が終わり肌寒い十一月の帰り道、自分に問いかけた。

私は小学四年のとき初めて具体的な将来の夢を抱いた。このとき抱いた夢は高校二年のときまで目指していた夢だ。今じゃ恥ずかしくて言えないような夢だけど、私は大手広告代理店、電通でバリバリ働くことが夢だった。当時伊東美咲が主演を努めていたCMプランナーのドラマに影響されたのだ。都会の綺麗なオフィスで洗練されたファッションに身をまとい、ハキハキとプレゼンするその姿がとても自分のなりたい大人の姿だった。またテレビっ子だった私はCMが好きだった。あの短い時間の中で繰り広げられる映像の世界は私にはとても魅力的で興味深かった。自分でCMを作れたらどんなに楽しい人生になるだろうと思っていた。ドラマをみてすぐに母親に「どうしたら伊東美咲みたいなお仕事ができるの？」と聞いたのを覚えている。母は「電通とかに入りたいの？じゃあ東大、早稲田慶応目指さないとね。」と言った。

頭がよくないと叶わない夢だと知ってから私は勉強をちゃんとするようになった。そのため高校は県トップクラスの偏差値を誇る高校に入学した。今じゃ笑ってしまいうような話だけど私は純粹に小四の時から高校まで電通に入るために勉強を頑張っていたのだ。

だが、私も時代も変わった。私の学力は高校に入った途端に伸びなくなったり、大好きなテレビはスマートフォン、YouTubeなどのネット媒体の影響により衰退していった。電通は若い女性社員を自殺に追い込んだ。私も時代も虚しすぎるほど変わった。自分の学力はなんとなくいつか限界が来るとは思っていたが、まさか電通とテレビが墮ちる時代が来るなんて思いもしなかった。

純粹に職業に対して憧れを持ち、なりたい！と思いきれに向かって突き進むことのできた時代が愛おしい。あきらめること、妥協することをしなくていい時代が愛おしい。大人になってから新しく何かやりたいことをみつけれたいと思っても現実的になった自分と歳をとった自分が邪魔をする。できることならまだ大人に

なりたくない。けど時は無情に流れるわけだし、食べていかなければならない。だからとにかく自分の将来を見つめて就活をしなければならぬ。社会人になるということはあきらめることから始まるのかなと最近思う。

最近よく友人と色々な企業、業界の話をする。電通の話題になったとき、驚いたことにみんな例の報道のこともあって電通の名前は知っているが、何をしている会社かは知らなかった。私は驚いた。みんなは小さいとき何になりたかったのだろうか。